

Ⅲ. 開講授業科目一覧

【学 期】	前学期	4月～8月	授業開始日	4月16日(月)から
	後学期	10月～3月	授業開始日	10月1日(月)から

【授業時間帯】	◇月曜日～金曜日	夜間開設	11・12時限
	◇集中		1～10時限

(日程は、科目ごとに示すとおり)

9:00	～10:30	(1・2時限)
10:40	～12:10	(3・4時限)
13:20	～14:50	(5・6時限)
15:00	～16:30	(7・8時限)
16:40	～18:10	(9・10時限)
18:20	～19:50	(11・12時限)

◇各科目は原則として90分講義15回で構成

【開講授業】

○障害児保育教育論Ⅰ 前学期 2単位 月曜日 11・12時限

担当：長谷川 武弘

近年、幼稚園や保育所において障害を持った子どもと持たない子どもと一緒に活動する、いわゆる統合保育が増加してきている。障害児保育教育論Ⅰでは、聴覚障害や視覚障害といった感覚障害を中心に障害種ごとの特徴を説明する。後半では「障害」の考え方、とらえ方を、これまでの障害児に対する教育実践や障害学の考え方をもとにとらえ直す。とくに、聴覚障害者に対する教育現場での手話使用の歴史や重度重複障害児の教育実践から生まれた「相互輔生(そうごほせい)」という考え方などを取り上げ、ディスカッションを交えながら考えていく。

○育児・保育環境と工学Ⅰ 前学期 2単位 火曜日 11・12時限

担当：鈴木 真・片岡 幸代

子どもが育つ環境はどのような条件を満たしていなければならないだろうか。快適性や安全性だけでなく、子どもの発達段階にあわせた理想的な環境とはなんだろうか。また、育児製品やおもちゃはどのような思想に基づいて設計されているのだろうか。子どもの体や行動の特性を測定し、その測定結果をどのように、育児環境設計に生かすのだろうか。こうした問いに答えるのが本科目である。

さまざまな計測結果を生かした、子どもの生育環境や育児製品はどのようなものであるのか、実際に機材を使って得られた実測データをもとに学ぶ。

○子どもの病気とそのメカニズムⅠ 前学期 2単位 水曜日 11・12時限

担当：榊原 洋一

保育士や幼稚園教諭は、子どもの体のつくりとその働き、そしてその発達についての十分な知識を持つ必要がある。従来の保育士、幼稚園教諭のカリキュラムでは、こうした基礎知識と、子どもによくある病気の理解と対応の仕方について十分な時間が割かれていない。まず子どもを知ることが、保育、幼児教育の原点であるという視点に立ち、本科目では医学部のカリキュラムに準じた内容で講義を進める。また、子どもによく見られる病気については、その診断と基本的な対処が可能になることを目指す。

○保育実践研究Ⅰ／Ⅲ *

前学期 2単位 木曜日 11・12時限

○保育実践研究Ⅱ／Ⅳ *

後学期 2単位 木曜日 11・12時限

担当：講座スタッフ

保育実践研究Ⅰ～Ⅳは、3人の専任教員が分担して担当します。

この科目の履修希望者は、担当者の名前を明記して志望理由書を書いてください。

(大戸担当分)

受講者の現場(保育所や幼稚園)における保育場面を細かに区切り、個々の場面(例えば、朝の遊び場面、午後の遊び場面、食事場面、トイレ使用場面、etc.)での子どもたちや保育者の動きに関する記録を持ち寄り、両施設における子どもの生活の実態と指導の在り方を比較検討する。Ⅰ／ⅢとⅡ／Ⅳは同時開講であるが、Ⅰ・Ⅱの履修生については、ドキュメンテーションの作り方の向上が求められ、Ⅲ・Ⅳの受講生には、各自場面を限定して年齢差や指導形態の違いによる行動の違いを分析・考察して報告書を作成することが求められる。演習を通して保育と教育を上手にブレンドできるハイブリットな保育者の養成がめざされる。各期1回は、特色のある保育現場の見学を行う予定である。施設見学に参加でき、また記録の提供ができる方の履修を望む。

(榊原担当分)

榊原が担当する保育実践研究は、保育、幼児教育の現場で現職保育者が遭遇する問題について解析し、問題解決の実践的な方法を探るゼミ形式の講義である。子どもの心身の発達や子育て環境に関するすべての分野が対象となるが、特に近年関心と懸念がもたれている子どもの発達障害に焦点を当てる。

Ⅰ・Ⅱでは、主に講義と臨床見学(病院、保健所)によって、発達障害の子どもの実態について学ぶとともに、保育園、幼稚園での注意欠陥多動性障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群の子どもたちにどのように対応すべきか、保護者や保育者同士の連携はどのようにすべきかといった実践的なテーマについて理解を深める。

Ⅲ・Ⅳではさらに各自で課題を設定し質問紙、論文抄読、実地観察などを通じて、その解法を探索する。症例研究や質問紙研究の解析方法についての講義(論文検索法、統計解析法)も必要に応じて行う。最終的には、受講者がそれぞれの課題研究について、研究会や学会等での発表を目指す。

(長谷川担当分)

長谷川が担当する保育実践研究では、子どもに対する疑問や保育場面における疑問を、心理学の研究法を拠り所にして実験研究や調査研究を行い掘り下げていく。授業はすべてディスカッションを中心としたゼミ形式で行い、必要に応じて講義も行いながら進める。

Ⅰ／ⅢとⅡ／Ⅳはそれぞれ同時に開講するが、Ⅰ・Ⅱでは、前半ではその基礎となる心理学の研究法について講義を中心に学び、後半では研究テーマの絞り込みとプランニングを行う。特に後半では、各自が持っている疑問・興味に基づいた研究テーマが見つかるよう、関連する文献の読みすすめを通して焦点を絞り込み、具体的に心理学の研究法に則った研究として組み立てていくことができるよう指導する。研究プランができ次第、実際の調査・実験に着手し、得られたデータの解析・検討を行う。実験の予行練習や予備実験、予備調査なども必要に応じて行っていく。取り扱うことが可能なテーマとしては、保育場面や子育てに関する質問紙を用いた調査研究や子どもの認知機構を調べるような実験研究、大人を対象にした脳波を用いた脳機能研究などがある。

Ⅲ・Ⅳでは同時平行で開かれるⅠの心理学の研究法について確認をしながら、これまで行った研究に関連する文献を検索し読みすすめる。これまでに行った研究を継続してデータ収集・解析も行う。また、後半ではこれまで行ってきた研究を、簡単な論文の形になるようまとめる作業を中心に進めていく。

(保育実践研究Ⅲ、Ⅳは、Ⅰ、Ⅱを受講していることが前提となる)

○保育臨床演習Ⅰ **

前学期 2単位 金曜日 11・12時限

担当：大戸 美也子

保育の周辺にあって、保育者が対応に苦勞し、その関係の在り方で保育の質が左右される2つの関係—保護者との関係、職場の仲間関係—について検討する。今期は、現代社会において子どもを生み・育てる当事者である保護者が求める養育力について、調査結果から明らかにし、それらをエンパワーするためのさまざまな方法を探っていく。先駆的な取り組みをしている現場の報告を聞く機会も用意する。

○保育者の情報学応用 **

前学期（集中） 2単位 8/6 ~ 8/8 の 1~10時限

担当：鈴木 真・片岡 幸代

コンピュータ技術が発達しインターネットが爆発的に普及した近年、情報発信の手段としてホームページを持つ幼稚園や保育園が増えてきている。また毎月のお便りや行事の案内、部屋の中の掲示物などを、パソコンを用いて作る機会もある。この授業ではパソコンを用いた実習の応用編として、情報発信に焦点をあて、実習を中心に講義も含めて進める。特に、行事などの様子を記録した写真をちりばめたお便りや、パンフレットなどの作成にチャレンジする。必要があればビデオの取り込み、写真の編集なども織りませ、実習をしながら操作を体験する授業である。

（本科目の受講に際しては「保育者の情報学基礎」を受講している必要はないが、コンピュータ操作の基礎的なことは習得していることを受講の条件とする）

（「保育と食育」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「保育と食育」の履修はできません）

○保育と食育

前学期（集中） 2単位 8/6 ~ 8/8 の 1~10時限

担当：酒井 治子

食事は、エネルギー源であると同時に、子どもの体を作り上げる材料を提供する重要な資源である。また、食事の場面は、保育者と子どもが濃厚な社会関係を成立させる場でもある。子どもは食事場面での基本的な行動を模倣し、社会的習慣として身につける。さらに、食事は睡眠と並んで生活リズム形成の要となる活動である。

本科目では、生活の中での子どもの「食を営む力」への理解と、園と家庭とが連携した支援方法、そのためのカリキュラム作りの習得をめざす。

（「保育者の情報学応用」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「保育者の情報学応用」の履修はできません）

○実践音楽療法

前学期（集中） 2単位 8/9 ~ 8/11 の 1~10時限

担当：呉 東進・下川 英子

朝のご挨拶、音楽に合わせた体操やリズム遊び、そして帰りのご挨拶など、多くの場面で日常的に音楽が使われており、子どもたちは音楽に触れる機会が多い。しかしこの音楽にどのような意味があり効果があるのか、考える機会はあまりないのではないだろうか。また、音楽は発達障害児とのコミュニケーション形成に有効な手段の一つでもある。本科目では音楽を生かした子どもとの関係形成を目指す音楽療法を取り上げ、音楽療法の基本となる考え方を学ぶ。また、実際に音楽療法の体験もおこない、保育に取り入れる際の留意点などを、実践を通して感じ取る授業である。

（「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅲ」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅲ」の履修はできません）

○絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅲ

前学期（集中） 2単位 8/9 ～ 8/11 の 1～10 時限

担当：森下 みさ子

「おもちゃ・メディア・絵本Ⅰ」の学習を踏まえ、玩具の最前線について保育と製作現場の双方からアプローチしていく。子どもに人気のある玩具やゲームを実際に操作したり、玩具を扱ったり作ったりしている現場の見学を行いながら、子どもと玩具との変わりつつある関係について検討する。また、年齢を超えて玩具が生み出すコミュニケーションの可能性についても考えていく。

（「実践音楽療法」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「実践音楽療法」の履修はできません）

○障害児保育教育論Ⅱ

後学期 2単位 月曜日 11・12時限

担当：長谷川 武弘

近年、幼稚園や保育所において障害を持った子どもと持たない子どもと一緒に活動する、いわゆる統合保育が増加してきている、障害児保育教育論Ⅱでは、特別支援教育をキーワードに授業を進める。前半はこれまでの障害児教育（特殊教育）が歩んできた歴史を説明し、障害児教育が特殊教育から特別支援教育にかわる背景を概観する。後半は特別支援教育の考え方、実際の様子を講義と現場の先生の講演を聞く形で理解を深める。また、受講生各人が関係する自治体で行われている特別支援教育の現状を調査し、発表していただくことも予定している。

○乳幼児行動の発達心理学

後学期 2単位 火曜日 11・12時限

担当：安治 陽子

子どもの体と心の発達、疾患についての知識と同様に、保育士、幼児教育専門家にとって欠かせないのが、子どもの心理特性とその発達の理解である。子どもの発達援助、保護者への子育て支援、さらには親子の関係性をつなぐような援助をすすめるうえでの発達の理解は重要である。発達心理学の理論的・実践的知見を紹介しながら子どもの発達とそれを保障する援助・支援について考える。

○乳幼児の発達と脳科学Ⅰ

後学期 2単位 水曜日 11・12時限

担当：榊原 洋一

乳児への働きかけや言葉かけは乳児の脳機能にどのような影響を与えるのだろうか。かつては、タブラ・ラサ（真っ白な板）と称されていた、乳児がすでに複雑な脳機能を有し、乳児を取り巻く世界、他の人、そして自分自身について積極的に学習をしてゆくことが明らかになっている。「ゆりかごの中の科学者」とも称されるこうした豊かな乳幼児の脳機能について近年大きな発展を遂げた脳科学的な視点から、画像を多用しながら解説を加えるとともに、乳児にかかわる保育の役割について考える。

○比較保育学Ⅰ

後学期 2単位 金曜日 11・12時限

担当：大戸 美也子

今期は、就学前の子どもたちの発達を見通した一貫したカリキュラムを開発している北欧の国々やドイツの乳幼児保育とわが国の幼保一体的運営施設の実態とを比較検討し、保育と教育を共に大切にする就学前教育・保育の在り方を学習する。特に、フィンランドの幼児保育とドイツの陶冶ネットワークについては、これらに詳しい専門家を加えて討議する機会を用意する予定である。

○現代育児論 I

後学期（集中） 2単位 2/2～3/1のうちの土曜日3日間の 1～10時限
担当：汐見 稔幸・大日向 雅美・小西 行郎

現在ほど育児のあり方が問われた時代はない。少子化による社会全体としての育児経験の減少、男女共同参画のもとでの長時間保育の普及、そして認定子ども園に集約される幼保一元化の動きなど、保育、幼児教育の現場には大きな変動と混乱がもたらされている。また、家庭における育児力の低下に伴い、保育、幼児教育専門家には、地域コミュニティにおける育児支援の役割が期待されるようになってきている。こうした不確実で変動する保育、幼児教育界の中で、オピニオンリーダーとして活躍してきた3人の講師が、乳児発達、育児支援、保育におけるコミュニケーションなどについて鋭く切り込んだ講義を展開する。

（授業日は、6月下旬頃確定予定）

（「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅳ」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅳ」の履修はできません）

○絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅳ

後学期（集中） 2単位 2/2、2/16、3/1の 1～10時限
担当：一色 伸夫・坂上 浩子

シリーズ講義の第4弾。乳幼児の日常生活の中で、睡眠について多くの時間が費やされるのが、テレビ、ビデオなどの画像メディア視聴である。長時間視聴が子どもに与える影響についてさまざまな意見が交錯するテレビメディアの製作の第一線で活躍する講師と、メディア製作現場から幼児教育現場に軸足を移した講師が、メディアの製作側と視聴者の側の両方の視点から、現代の子供向けメディアの現状と課題について具体的に解説する。ビデオなどを多用して講義を進める。

（「現代育児論Ⅰ」と同日程での開講であるため、本科目を履修する場合「現代育児論Ⅰ」の履修はできません）

【履修上の注意点】

1. *は実習（ゼミ）形式、**は演習形式、これら以外は講義形式での開講となります。
2. 「保育臨床演習」、「比較保育学」、「子どもの病気とそのメカニズム」、「乳幼児の発達と脳科学」、「育児・保育環境と工学」、「絵本・おもちゃ・メディア研究」の各科目はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのどれからでも履修可能です。
3. 「保育実践研究」、「障害児保育教育論」の各科目は一年を通しての履修（通年）を前提とします（Ⅰのみ、Ⅱのみ、Ⅲのみ、Ⅳのみの履修は原則として認めません）。
4. 「保育実践研究」は、今年度までにⅠ、Ⅱを履修しどちらの単位も取得できている場合、もしくは取得見込みである場合に次の年度以降にⅢ、Ⅳを履修することができます。この科目の履修に際しては、4月にオリエンテーションを行います。
5. 「保育者の情報学応用」と来年度開講を予定している「保育者の情報学基礎」の二つの科目は、どちらを先に履修しても構いません。
6. 集中講義の「保育者の情報学応用」と「保育と食育」・「実践音楽療法」と「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅲ」・「現代育児論Ⅰ」と「絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅳ」はそれぞれ同日程での開講であるため、二科目のうちどちらか一科目しか受講できません。
7. 一度履修した科目は、原則として毎年の授業内容が同じであるため、単位取得が出来なかった場合を除き、2回目以降の履修はできません。

【連絡事項】

1. 教科書・参考書・参考資料等については、それぞれ別途指示します。